宝が池連続学習会 2015/第 5 回「楽しい森をめざそうー森の将来像を語るー」　■■グループディスカッション・３班：「どうしていこう？ 宝が池の森」

＜参加メンバー：鎌田、木下、山田、上田、浅井、大谷、小川

記録：小川

豊かな森づくりの為に足りないことは？

コミュニティ

協力者が足りない！

＜理解者・協力者を増やす＞
・地域や企業への声掛け
・老人力に頼る
・市のまきこみ
・公園の窓口をつくる。
・継続して森を見るグループ

＜コミュニティづくり＞
・野生生物に関しては、みんな困っている。協力しあえるのでは？
森の専門家と地元利用者が同じテーブルで話せる場をつくる

子ども
周辺地域
企業
行政
地元利用者
森の専門家

活動への協力・参加要請

普及・啓発

森づくりへの理解が足りない

＜宝が池の自然や問題を伝えてゆくべき＞
・地域の人は、宝が池の環境に興味がない。
・宝が池の自然について知る場が必要
・森は神秘的な部分がある。一人では入りにくい。

樹名板づくり
案内マップ・看板
森の案内
自然観察会
環境学習
レンジャー

＜コアな人だけでなく多くの人に伝えないと！＞
・スイーツ・マラソンのような、誰もが楽しいと思うイベントの開催する
・森の公園を楽しむイベントの開催
・子どもを巻き込む

イベントの開催

何で引き込むか？，森づくりとの関連付けが必要

情報の発信

活動の情報が足りない

地域へ情報が伝わっていない（特に岩倉）
イベントや活動があることが、知られていない。

調査内容が、多くの人と共有できないのはもったいない

ニュースレターの作成
・活動・取組の状況
・調査の結果
・活動の予定

・回覧板の活用

・小学校や老人会、保育園などへ配布する

イベントの際は広告・宣伝の強化を！

活動を発信する人

＜調査について＞
もっと基礎的なことが知りたい。精度や誤差などの基準がわからないので、「これだけは守る」といったラインをきめてほしい。

各種作業をする人

企画・運営をする人
森を案内する人

自治会との連絡役
コミュニティづくり
企業や地域コーディネイト
広報・連絡
事務局
マネジメント
プロデューサー
ディレクター
助成金の確保

受け皿となる組織に人材が足りない！

宝の森をつくる会

・プロとして調査をやっているが、どのように関わってゆけば良いのだろうか？
・毎回は来れないが、家でできることもあるのだろうか？
・肉体労働向きに感じるので、関わりにくい。そうでない作業もあるのだろうか？イメージをかえてほしい。

まずはここにいるメンバーが参加して、やれることをやってみよう

わかりやすい活動
気軽に参加しやすいイメージ
受け皿となる組織の充実

部会を作り、多様な人が活動できる場を用意する。